

# 地域教育ネットワークの現状と課題

K I Uインターネット教育研究フォーラム'98 in summer  
(19980801) パネルディスカッション「地域教育ネットワークの現状と課題」



東海スクールネット研究会代表/南山大学経営学部情報管理  
学科  
教授 後藤 邦夫

1. 東海スクールネット研究会の活動
2. 課題

---

## 1. 東海スクールネット研究会の活動

1. 1994年12月12日設立(100校プロジェクト校が決まったころ)
2. 教員による草の根自律組織、会費無料、メイリングリストと持ち回り定例会
3. 世話人によるワーキンググループ制、自律的な支援活動
4. 大きすぎるプロジェクト、金欠、マンパワー不足
5. 会費制(個人+賛助)へ移行、より綿密な予算計画と活動
6. 約150会員, 賛助12社、世話人12名(代表世話人 古井雅子 愛知県立中村高校)
7. メイリングリストのみの参加は無料!!

## 主なプロジェクト、国際会議

1. 生徒会交流プロジェクト(1996/6-8) + ネパールプロジェクト (1998/8-10) (<http://202.249.160.2/nepal/>)
2. 2周年記念講演: KIDLINK - Global Networking for Youth 10 - 15 years of age KIDLINのOdd de Presno氏  
<http://www.kidlink.org/> (1996/2)
3. アジア高校生交流プロジェクト (1997/3--) + シンポジウム(1997/7)
4. スクールネット研究会の参加 6校がドメイン schoolnet.or.jpによる 自主接続運用 (1997/3--)
5. Schoolnet Conference '98 in Nagoya (1998/7)

## 本

1. 日本・ネパール国際交流実行委員会編 著者19名,  
『ここまでやるか! 国際交流』, 教育家庭新聞社, 平成9年3月10日発行.
2. 監修後藤邦夫 編集・執筆 影戸誠 栗本直人他 スクールネット研究会参加者多数, 『教室から世界へインターネット実践例集』, 教育家庭新聞社, 平成9年1月4日発行.

---

## 課題

1. トップダウン、ボトムアップ活動の協調
  1. 文部省 --> 教育委員会 --> 学校に情報が届くまでの遅延、フィルタリング
  2. 私立学校は自力で教育利用のメリットを説明し予算化する必要がある
  3. トップダウンの方針と現場教員の希望のギャップ
  4. 公立の横ならばは、自律運用管理できる学校にとっ

ては、縮小傾向に向い、自由な運用ができなくなる  
こともある

2. 「石橋を叩き壊す」か「走りながら考える」か
3. 活用支援、運用技術支援の重要性と体制作り  
-- トップダウン、ボトムアップ、その中間のギャップの  
いずれにおいても必要。体制は全体で考え、足周りの  
地域センターも必要

---

## 参考URL

- 東海スクールネット研究会 (<http://www.schoolnet.or.jp/>)  
報告書 Vol.2(1998/??) Vol.1(1996/7)
- 東海インターネットワーク協議会  
(<http://www.tokai-ic.or.jp/>)
  - シンポジウム 1998 予稿集  
1997(捜索中) 1996 1995 1994 1993 1992
  - 会報 1996 1995 1994 1993 1992

---

[goto@iq.nanzan-u.ac.jp](mailto:goto@iq.nanzan-u.ac.jp)

<http://www.nanzan-u.ac.jp/~goto/>